

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

ドイツ語のヴォイスとその周辺 Voice and related matters in German

成田 節
Takashi Narita

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、特集「ヴォイスとその周辺」(『語学研究所論集』第17号, 2012, 東京外国語大学)に寄与するものである。本稿の目的は、40のアンケート項目に対するドイツ語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Voice and related matters’ (Journal of the Institute of Language Research 17, 2012, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer German data for the question of 40 phrases.

キーワード: 自動詞と他動詞, 使役表現, 再帰代名詞, 中間構文

Keywords: intransitive and transitive, causative expression, reflexive pronoun, middle construction

はじめに

諸言語における「ヴォイスとその周辺」についての風間(2012)の総論, およびそこに提示されている例文をベースに, ドイツ語での状況を記述し, 若干のコメントをつける。¹

【自動詞と他動詞の対立】

1-a ドアが開いた。

Die	Tür	öffnete	sich.
the.F.SG.NOM	door(F):SG.NOM	open.PST:3SG	REFL.ACC

「ドアを開ける」は他動詞 *öffnen* (>*öffnete*)で, 「ドアが開く」は(1-a)のように他動詞 *öffnen* と再帰代名詞 *sich* の組合せで表現する。このように他動詞+再帰代名詞で対象の変化を表す表現として, *sich biegen* 「曲がる<曲げる」, *sich ändern* 「変わる<変える」, *sich erhöhen* 「上がる<上げる」, *sich entfalten* 「広がる<広げる」, *sich ausdehnen* 「膨張する<膨張させる」などかなりの例がある。

1-a_i グラスが割れた。

Das	Glas	zebrach.
the.N.SG.NOM	glass(N):SG.NOM	break.PST:3SG



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 例文の容認可能性判断に際しては東京外国語大学のクリストフ・ヘンドリクス氏にご協力いただいた。また, 匿名の査読者からは数多くの有益なコメントをいただいた。ここに記して感謝します。

一方 zerbrechen (>zerbrach)のように、再帰代名詞を伴わず、同一形態で他動詞用法「割る」と自動詞用法「割れる」を併せ持つ動詞もある。このタイプの動詞には、brechen「折れる・折る」、reißen「ちぎれる・ちぎる」、trocknen「乾く・乾かす」、rollen「転がる・転がす」などがあるが、再帰代名詞を伴って自動詞的意味を表す動詞ほど多くはない。²

1-b 彼はドアを開けた。

Er öffnete die Tür.
he open.PST:3SG the.F.SG.ACC door(F):SG.ACC

1-b_i 彼はグラスを割った。

Er zerbrach das Glas
he break.PST:3SG the.N.SG.ACC glass(N):SG.ACC

(1-b)と(1-b_i)はそれぞれ再帰動詞表現(1-a)と自動詞表現(1-a_i)に対応する他動詞表現である。

1-c ドアが (誰かによって) 開けられた。

Die Tür wurde (von jemandem) geöffnet.
the.F.SG.NOM door(F):SG.NOM become(AUX).PST:3SG (by someone) open:PP

1-c_i グラスが (誰かによって) 割られた。

Das Glas wurde (von jemandem) zerbrochen.
the.N.SG.NOM glass(N):SG.NOM become(AUX).PST:3SG (by someone) break:PP

「ドアが開けられた」や「グラスが割られた」のように、事態を引き起こす行為者が含意される場合は受動態が用いられる。再帰動詞表現の(1-a) Die Tür öffnete sich.および自動詞表現の(1-a_i) Das Glas zerbrach.には von jemandem 「誰かによって」を付け加えることはできない。

1-d グラスが割れた。(=1-a_i)³

Das Glas zerbrach.
the.N.SG.NOM glass(N):SG.NOM break.PST:3SG

(1-a)と(1-a_i)に関して記したように、他動詞表現から動作主を消去した形の自動詞表現には、(1-d)のように他動詞と同一形態の自動詞のみで表せるものと、(1-a)のように再帰代名詞を伴うものの2タイプがある。

【自動詞からの使役と他動詞からの使役】

2 先生が生徒を立たせた (=立ち上がらせた)。

Der Lehrer ließ den Schüler aufstehen.
the.M.SG.NOM teacher(M):SG.NOM let.PST:3SG the.M.SG.ACC pupil(M):SG.ACC stand up:INF

² これら2タイプの動詞については大矢 (2008: 103ff.) に詳細な記述がある。

³ アンケートの例文は「ドアが壊れた」だが、これは通常「金具などが壊れて開け閉めができない」ことを意味する。この意味での「壊れる」は kaputtgehen (<kaputt 壊れた状態に+gehen 行く), 「壊す」は kaputtmachen (kaputt 壊れた状態に+machen する) となる。ここでは同一動詞で比較できるように「グラスが割れた」という例文を挙げた。

2_i 彼は生徒を窓際に立たせておいた。

Er ließ den Schüler am Fenster stehen.
he let.PST:3SG the.M.SG.ACC pupil(M):SG.ACC at the.M.SG.DAT window(N):SG.DAT stand:INF

不定詞が自動詞の使役表現では、被使役主 (Causee) は対格で表される。特段の文脈がなければ(2)は強制使役の読み、(2_i)は許可使役の読みで解釈されやすい。なお、(2)の状態変化動詞 *aufstehen* 「立ち上がる」と異なり、(2-i)の状態動詞 *stehen* 「立っている」は、通常は場所表示を伴う。

2_ii 彼は赤ちゃんをベビーチェアに座らせる。

Er setzte das Baby in den Kinderstuhl.
he put.PST:3SG the.N.SG.ACC baby(N):SG.ACC in the.M.SG.ACC child's chair(M):SG.ACC

(2_ii)のような直接的な働きかけには他動詞 *setzen* 「座らせる」が用いられる。

3 私は弟にその歌を歌わせた。

Ich ließ meinen Bruder das Lied singen.
I let.PST:1SG my.M.SG.ACC brother(M):SG.ACC the.N.SG.ACC song(N):SG.ACC sing:INF

3_i 私はその歌を弟に歌わせた。

Ich ließ das Lied von meinem Bruder singen.
I let.PST:1SG the.N.SG.ACC song(N):SG.ACC by my.M.SG.DAT brother(M):SG.DAT sing:INF

3_ii 私はその歌を歌わせた。

Ich ließ das Lied singen.
I let.PST:1SG the.N.SG.ACC song(N):SG.ACC sing:INF

不定詞が他動詞の使役表現では、(3)のように被使役者と不定詞の目的語をどちらも対格として並立させることも可能ではあるが、被使役者が (3_i)のように前置詞句で表されることも少なくない。しかし、むしろ(3_ii)のように、不定詞の目的語が対格で現れ、被使役者はそもそも現れないことが多い。⁴

【強制使役と許可使役】

4-a 彼女は子供にパンを買いに行かせた。(強制使役)

Sie ließ das Kind Brot kaufen gehen.
she let.PST:3SG the.N.SG.ACC child(N):SG.ACC bread(N):SG.ACC buy:INF go:INF

4-a_i 彼女は子供にパンを買いに行かせた。(強制使役)

Sie schickte das Kind zum Brotkaufen.
she send.PST:3SG the.N.SG.ACC child(N):SG.ACC to the.N.SG.DAT bread-buy(N):SG.DAT

「強制使役」の意味の「行かせる」は(4-a)のような *lassen* を用いた表現も可能だが、インフォーマントによれば「回りくどい」感じを与え、(4-a_i)のように *schicken* 「行かせる」という他動詞を用いる方

⁴ 藤縄 (2002) のコーパス調査によると、自動詞の使役表現 1357 例中、被使役者 (不定詞の意味上の主語) が対格で表される例が 1261 (93%) であるのに対して、他動詞の使役表現 1280 例中、被使役者が対格で表される例は 146 (11%) に過ぎず、被使役者の表示がない例は 890 (70%)、被使役者が前置詞句で表される例は *von* と *durch* を併せると 244 (19%) であり、さらに、他動詞の使役表現 1280 例中、他動詞の目的語が対格で表示される例は 1268 (99%) とのことである。

が好まれるとのことである。

4-b 彼女は子供を遊びに行かせた。(許可使役)

Sie ließ das Kind zum Spielen gehen.
she let.PST:3SG the.N.SG.ACC child.(N):SG.ACC to the.N.SG.DAT play(N):SG.DAT go:INF

「許可使役」の意味では(4-b)のように lassen を用いた表現が問題なく用いられる。

【他動詞による表現と使役の違い、直接の行為か間接の行為か】

5-a 私は弟に服を着せた。

Ich zog meinen Bruder an.
I dress.PST:1SG my.M.SG.ACC brother(M):SG.ACC P

5-a_i 私は(誰かに)弟に服を着させた。

Ich ließ meinen Bruder anziehen.
I let.PST:1SG my.M.SG.ACC brother(M):SG.ACC dress:INF

(5-a)では zog (<ziehen)と文末の不変化詞 an で一つの分離動詞 anziehen となっている。衣服を着せる相手を対格にする他動詞表現(5-a)では、主語が直接手を下して、服を弟の身体に付けるという意味になる。一方、ließ (<lassen)による使役表現(5-a_i)では対格の meinen Bruder は通常は被使役者ではなく、anziehen「～に服を着せる」の目的語と解釈され、「主語が誰かに指示(依頼)して弟に服を着させた」という意味になる。

5-b 私は弟に暖かい服を着せた。(=衣服を身につけてやった)

Ich zog meinem Bruder warme Sachen an.
I dress.PST:1SG my.M.SG.DAT brother(M):SG.DAT warm.F.PL.ACC clothes(F):PL.ACC P

5-b_i 私は弟に暖かい服を着させた。(=指示した)

Ich ließ meinen Bruder warme Sachen anziehen.
I let.PST:1SG my.M.SG.ACC brother(M):SG.ACC warm.F.PL.ACC clothes(F):PL.ACC dress:INF

anziehen には(5-a)のように衣服を着せる相手を対格にする用法と、(5-b)のように相手を与格、衣服を対格で表す用法がある。他動詞表現の(5-b)は(5-a)と同様、主語が直接手を下して、服を弟の身体に付けるという意味になる。一方、lassen による使役表現(5-b_i)では(5-a_i)と違い、対格の meinen Bruder は anziehen の主語 (=被使役者)、もう一つの対格 warme Sachen は anziehen の目的語となる。

【(物の)授受動詞は恩恵の授受においても助動詞的に使えるか】

6 私は弟にその本をあげた。

Ich gab meinem Bruder das Buch.
I give.PST:1SG my.M.SG.DAT brother(M):SG.DAT the.N.SG.ACC book(N):SG.ACC

7-a 私は弟に本を読んであげた。

Ich las meinem Bruder das Buch vor.
I read.PST:1SG my.M.SG.DAT brother(M):SG.DAT the.N.SG.ACC book(N):SG.ACC P

7-b 兄は私に本を読んでくれた。

Mein Bruder las mir das Buch vor.
my.M.SG.NOM brother(M):SG.nom read.PST:3SG to me the.N.SG.ACC book(N):SG.ACC P

日本語の「あげる」や「くれる」とは異なり、ドイツ語の *geben* などを恩恵の授受を表す補助動詞のように使うことはできない。ドイツ語で恩恵の受け手を表す可能性としては *Sie öffnet ihm/für ihn die Tür*. 「彼女は彼にドアを開けてやる」のように与格 *ihm* (him)あるいは前置詞句 *für ihn* (for him)があるが、このような与格や前置詞句がどのような動詞表現においても用いられ得るわけではない。また、上の例のように与格や前置詞句が可能な場合でも、日本語の「～てあげる」や「～てくれる」に比べると実際の使用頻度はそれほど高くはない。なお、(7-a)と(7-b)では *las* (<lesen)と文末の不変化詞 *vor* で一つの分離動詞 *vorlesen* となっているが、それぞれの与格 *meinem Bruder* および *mir* は、動詞 *vorlesen* 「読み聞かせる」の結合価 [主格が+与格に+対格を (読み聞かせる)] に含まれているので、恩恵の受け手を表すためにわざわざ用いられているのではない。

【テモラウ】

7-c 私は彼女に髪を切ってもらった。

Ich	ließ	mir	von	ihr	die	Haare	schneiden.
I	let.PST:1SG	REFL.1SG.DAT	by	her	the.N.PL.ACC	hair(N):PL.ACC	cut:INF

「彼女に髪を切ってもらう」は使役の *lassen* (>*ließ*)を用いて「私に (与格)・彼女により (前置詞句)・髪を (対格)・切る・させる」と表す。このような表現では被使役者「彼女」を対格で表すことはできない。

【再帰】

8-a 私は (自分の) 体を洗った。

Ich	wusch	mich.
I	wash.PST:1SG	REFL.1SG.ACC

8-b 私は (自分の) 手を洗った。

Ich	wusch	mir	die	Hände.
I	wash.PST:1SG	REFL.1SG.DAT	the.F.PL.ACC	hand(F):PL.ACC

8-b_i 私は (自分の) 手を洗った。

Ich	wusch	meine	Hände
I	wash.PST:1SG	my.F.PL.ACC	hand(F):PL.ACC

8-c 彼は (自分の) 手を洗った。

Er	wusch	sich	die	Hände
he	wash.PST:3SG	REFL.3SG.DAT	the.F.PL.ACC	hand(F):PL.ACC

8-c_i 彼は (自分の) 手を洗った。

Er	wusch	seine	Hände
he	wash.PST:3SG	his.F.PL.ACC	hand(F):PL.ACC

具体的な身体部位を表わさず、単に「体を洗う」を表すときは再帰代名詞を使い「自分を洗う」のように表す(8-a)。具体的な身体部位を表現するときは、身体部位を対格にし、所有者は(8-b)および(8-c)のように与格の再帰代名詞で表すことが多いが、(8-b_i)および(8-c_i)のように所有冠詞 *meine* (my)および *seine* (his)を用いることもできる。

【自利態】

9 (自分のために) 私はその本を買った。

Ich kaufte mir das Buch.
I buy.PST:1SG REFL.1SG.DAT the.N.SG.ACC book(N):SG.ACC

kaufen 「買う」や erwerben 「取得する」などを用いて「自分用に獲得する・獲得してわが物とする」という表限における「自分用に」は与格の再帰代名詞で表す。

【相互】

10 彼らは(互いに) 殴り合っていた。

Sie prügeln sich (gegenseitig).
they beat.PST:3PL REFL.3PL.ACC against each other

10_i 彼らは(互いに) 殴り合っていた。

Sie prügeln einander.
they beat.PST:3PL each other

再帰代名詞 sich は相互代名詞としての用法もある。相互代名詞専用の eiander という語もある。

【衆動】

11 その人たちは(みんな一緒に) 街へ行った。

Die Leute gingen zusammen in die Stadt.
the.F.PL.NOM people:PL.NOM go.PST:3PL together in the.F.SG.ACC city(F):SG.ACC

「一緒に」は副詞 zusammen で表す。

【自発】

12 その映画は泣ける(その映画を見ると泣いてしまう)。

Der Film lässt mich weinen.
the.M.SG.NOM film(M):SG.NOM let.PRS:3SG REFL.1SG.ACC cry:INF

12_i その映画は泣ける(その映画を見ると泣いてしまう)。

Der Film macht mich weinen.
the.M.SG.NOM film(M):SG.NOM make.PRS:3SG REFL.1SG.ACC cry:INF

12_ii その映画は泣ける(その映画を見ると泣いてしまう)。

Der Film bringt mich zum Weinen.
the.M.SG.NOM film(M):SG.NOM bring.PRS:3SG REFL.1SG.ACC to the.N.SG.DAT cry(N):SG.DAT

3通りの表現が可能だが、インフォーマントによると、使役の lassen を用いた(12)はジャーナリストは印象を与え、一種の使役を表す machen を用いた(12_i)は古風であり、bringen を用いた(12_ii)が最も自然に感じられるとのことである。

【意志／無意志】

13-a 私は卵を割った。(意志的行為)

Ich schlug ein Ei auf.
I crack.PST:1SG an.N.SG.ACC egg(N):SG.ACC P

(13-a)では *schlug* (<*schlagen*)と文末の不変化詞 *auf* で一つの分離動詞 *aufschlagen* となっている。*aufschlagen* は「割る」という意志的行為を表す。

13-b 私はそのコップを割った。

Ich zerbrach das Glas.
I break.PST:1SG the.N.SG.ACC glass(N):SG.ACC

13-b_i 私はそのコップを落として割ってしまった。

Ich ließ das Glas fallen und zerbrach es.
I let.PST:1SG the.N.SG.ACC glass(N):SG.ACC fall:INF and break.PST:1SG it.N.SG.ACC

13-b_ii 私はそのコップを割ってしまった。

Mir ist das Glas zerbrochen.
1SG.DAT is(AUX) the.N.SG.NOM glass(N):SG.NOM breakp:PP

zerbrechen を他動詞「割る」として用いる (13-b) は特別な文脈がなければ意志的な行為と解釈される傾向がある。(13-b_i)のように、前段階の *fallen lassen* 「落とす」 (<落ちる+使役) があれば無意志的な出来事の表現となる。また(13-b_ii)のように、*zerbrechen* を自動詞「割れる」として用い、責任の所在を表す与格 *mir* を添えることでも、意志的にはなく「うっかり割ってしまった」という状況を表すことができる。

【随意の不可能と不随意の不可能】

14-a きょう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。

Gestern habe ich so viel Kaffee getrunken,
yesterday have(AUX) I so much coffee(M):SG.ACC drink:PP
dass ich nicht schlafen konnte.
that I not sleep:INF could

14-b きょう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。

Gestern hatte ich so viel Arbeit, dass ich nicht schlafen konnte.
yesterday have.PST:1SG I so much work(F):SG.ACC that I not sleep:INF could

(14-a)のような不随意の不可能も、(14-b)のような随意の不可能も、可能の助動詞 *konnte* (<*können*)と否定の *nicht* を組み合わせた同じ表現を用いる。

【全体と部分・主体・一時的】

15 私は頭が痛い。

Ich habe Kopfschmerzen.
I have.PRS:1SG headache(M):PL.ACC

15_i 私は頭が痛い。

Mir tut der Kopf weh.
1SG.DAT do.PRS:3SG the.M.SG.NOM head(M):SG.NOM pain

(15)のように感覚主体を主語 *ich* にする表現と、(15_i)のように感覚主体を与格 *mir* にする表現がある。

【全体と部分・主体・恒常的】

16 彼女は髪が長い。
 Sie hat lange Haare.
 she have.PRS:3SG long.N.PL.ACC hair(N):PL.ACC

16_i 彼女は髪が長い。
 Ihre Haare sind lang.
 her.N.PL.NOM hair(N):PL.NOM be.PRS:3PL long

(16)のように所有者 sie「彼女」を主語にする表現と、(16_i)のように所有物 Haare「髪」を主語にする表現がある。

【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

17-a 彼は(別の)彼の肩をたたいた。
 Er klopft ihm auf die Schulter.
 he slap.PRS:3SG him.M.SG.DAT on the.F.SG.ACC shoulder(F):SG.ACC

17-b 彼は(別の)彼の腕をつかんだ。
 Er packte ihn am Arm.
 he grab.PST:3SG him.M.SG.ACC by the.M.SG.DAT arm(M):SG.DAT

働きかける相手である「彼(全体)」を(17-a)では与格 ihm で、(17-b)では対格 ihn で表し、身体部位は前置詞 auf die Schulter/am Arm で表す。

【知覚構文】

18-a 私は彼がやって来るのを見た。
 Ich sah ihn kommen.
 I see.PST:1SG him.M.SG.ACC come:INF

18-a_i 私は彼がやって来るのを見た。
 Ich sah, wie er kam.
 I see.PST:1SG as(COMP) he.M.SG.NOM come.PST:3ST

18-b 私は彼が今日来ることを知っている。
 Ich weiß, dass er heute kommt.
 I know.PRS:1SG that(COMP) he.M.SG.NOM today come.PRS:3ST

「彼がやって来るのを見た」という知覚表現では風間(2012: 10)の「単文的表現」(18-a)と「複文的表現」(18-a_i)の両方が可能である。一方「…ということを知っている」という認識表現では、接続詞 dass を用いた「複文的表現」が用いられる(18-b)。

【引用文中の再帰】

19 彼は自分(のほう)が勝つと思った。
 Er glaubte, dass er gewinnt.
 he think.PST:3SG that(COMP) he.M.SG.NOM win.PRS:3ST

19_i 彼は自分(のほう)が勝つと思った。
 Er glaubte zu gewinnen.
 he think.PST:3SG to win:INF

19_ii 彼は自分が監視されていないと思った。
Er glaubte sich unbeobachtet.
he think.PST:3SG himself unobserved

日本語の「自分」に当たる人物は, (19)のように主文の主語と同一の人称代名詞を用いる。この他 (19_i)のように「自分」は表さずに zu 不定詞を用いる表現や, (19_ii)のように「自分」を対格の再帰代名詞 sich で表す表現もある。

【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

20-a 私はパン (の一部) を食べた。
Ich habe vom Brot gegessen.
I have(AUX) of the.N.SG.DAT bread(N):SG.DAT eat:PP

20-b 私はパンを (全部) 食べた。
Ich habe das Brot gegessen.
I have(AUX) the.N.SG.ACC bread(N):SG.ACC eat:PP

外延が限定された対象を目的語とする場合, 対格だと対象全体への働きかけを含意し(20-b), 前置詞句だと対象への部分的な働きかけが表される(20-a)という対立が見られることがある。

【恒常的な否定文】

21 彼は肉を食べない。
Er isst kein Fleisch.
he eat.PRS:3SG no.N.SG.ACC meat(N):SG.ACC

否定冠詞 kein を用いるが, 否定文でも肯定文でも目的語の格は対格で変わらない。

【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない, より客観的な表現】

22-a 今日は寒い。
Heute ist es kalt.
today is it cold

【感覚述語・非人称文／斜格主語】

22-b 私は寒い。
Mir ist kalt.
I.DAT is cold

22-b_i 私は寒い。
Ich empfinde Kälte.
I feel.PRS:1SG cold(F):SG.ACC

「寒い」「暑い」などは形容詞+sein (be)で表す。「今日は寒い」の場合は非人称主語 es が現れる (22-a)。「私は寒い」では感覚主体は与格で表され, 主語は現れない (22-b)。成田 (2020: 175f.) に記されているように, 頻度は低い, 「私は寒い」は感覚主体を主語, 「感覚」を対格として (22-b_i) (=私は寒さを感じる) のように表現することもできる。

【(感情主体が受動的である) 感情述語】

23 人がとても多かったことに私は驚いた。

Es überraschte mich, dass es so viele Leute gab.
it surprise.PST:3SG 1SG.ACC that(COMP) it so many people:PL.ACC give.PST:3SG

23_i 人がとても多かったことに私は驚いた。

Ich war überrascht, dass es so viele Leute gab.
I be.PST:1SG surprise:PP that(COMP) it so many people:PL.ACC give.PST:3SG

他動詞 überraschen 「驚かす」を用いて感情主体を対格にする表現(62)と、感情主体を主語とし、überraschen の過去分詞と sein (be) と組み合わせる表現(63)がある。

【現象文・現場での直接体験】

24 雨が降り始めた。

Es fängt an zu regnen.
it start.PRS:3SG P to rain:INF

「雨が降る」の最も普通の表現である es regnet (it rains) と anfangen 「始める」を組み合わせる表現。

【中間構文】

25 この本はよく売れる。

Dieses Buch verkauft sich gut.
this.N.SG.NOM book(N):SG.NOM sell.PRS:3SG REFL.3SG.ACC well

25_i この本はよく売れる。

Dieses Buch lässt sich gut verkaufen.
this.N.SG.NOM book(N):SG.NOM let.PRS:3SG REFL.3SG.ACC well sell:INF

「本」を主語とし、他動詞 verkaufen 「売る」と再帰代名詞を組み合わせる表現(65)と、さらに使役の lassen を加える表現(66)がある。インフォーマントによると後者は出版社や書店の視点からの表現と感じられるとのことである。

略語一覧

1	first person	F	feminine	PP	past participle
2	second person	GEN	genitive	PREP	preposition
3	third person	INF	infinitive	PRFX	prefix
ACC	accusative	M	masculine	PRS	present
ADJ	adjective	N	neuter	PST	past
AUX	auxiliary	NOM	nominative	REFL	reflexive pronoun
COMP	complementizer	P	particle	SG	singula
DAT	dative	PL	plural		

参考文献

- 大矢俊明 (2008) 『ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究』 ひつじ書房.
- 風間伸次郎 (2012) 「企画：特集「ヴォイスとその周辺」まえがき」 東京外国語大学『語学研究所論集』 第 17 号, 1-22.
- 成田節 (2020 「ドイツ語における他動性」 (特集補遺データ) 東京外国語大学『語学研究所論集』 第 25 号, 173-188.
- 藤縄康弘 (2002) 「コーパスによる不定詞付き対格構文分析— lassen の下における事例を対象に一」 井口 靖 (編) 『コーパスによる構文分析の可能性』 2002, 日本独文学会研究叢書 009, 60-75.

執筆者連絡先 : narita@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2023 年 3 月 12 日